



夢に向かって~勝敗の向こう側に

「決勝でセリーナと対戦することが小さい頃からの夢でした。」

その通りに、全米オープン決勝で実現した宿願の対決で、大坂なおみ選手（20歳）が元世界ランキング1位のセリーナ・ウィリアムズにストレート勝ちという快挙を遂げました。男女を問わず、日本初となるグラントスラム（四大大会）優勝に、日本中が沸き立っています。

一方で、表彰式では、ブーイングの嵐の中、大坂選手が涙に濡れた顔で表彰台に立ち、敗者であるセリーナが会場を静めるという異様なものとなり、大きな波紋を呼んでいます。

決勝戦の会場は、セリーナの女王復帰を望む観衆で埋まっていました。その上、第2セットの審判の判定を巡り、「セリーナに不公平だ」というブーイングが広がり、騒然とした雰囲気になっていきました。

表彰式になっても、観衆の不満は収まりませんでした。



セリーナはブーイングする観衆たちに、「彼女（大坂選手）は、いいプレイをしました。今この時をいい時間にしましょう。もうブーイングはやめて…」と言って、大坂選手の肩を抱きました。

大坂選手も声を震わせながら、「みんながセリーナを応援していたのは知っています。こんな形で終わってしまって、ごめんなさい。でも、試合を見に来てくれてありがとう」とインタビューに答え、さらに、「セリーナと全米決勝で戦う夢がかなってうれしい。試合をしてくれて、ありがとう」と、セリーナ選手に向かって頭を下げたのでした。

大会の品位をおとしめることになる表彰式の雰囲気を救ったのは、この二人でした。勝敗や国籍を越えて、互いをたたえ合う姿が印象的でした。

実は、セリーナにとっても、この全米オープンとは特別なものでした。母体にも危険を伴うような出産から復帰したばかりだったことに加え、この全米オープンで優勝すれば、24回目のグラントスラム女子シングルス優勝となり、歴代最多優勝の記録に並ぶことができたからです。



さて、皆さんは、どんな夢に向かって、今をどう生きていますか。今週行われる中間テストも、夢につながる小さな一歩となるかもしれません。そして、クラスの友達と互いを認め合い、高め合えるような場となることを願っています。

★大坂なおみ選手の言葉から★

「何事も口に出したほうが、達成するのは簡単になる」
 「誰にでもチャンスはある」
 「負けたからといって世界の終わりではない」
 「この大会に優勝しに来た。まだ止まるわけにはいかないわ」

夢のある者には 希望がある
 希望のある者には 目標がある
 目標のある者には 計画がある
 計画のある者には 行動がある
 行動のある者には 実績（成功）がある

